



令和6年4月 地域おこし協力隊着任 (梨栽培の担い手)

梨農家を目指して、
小目町で研修を
しています！



出身地 東京都練馬区

誕生日 2001年7月27日(24歳)

農業に興味を持ったきっかけ

中学のときに東京から北海道十勝地方へ引っ越し、農業が身近にある環境で育ちました。農作業を体験する中で感じた土の匂いや収穫の達成感に強く心を動かされ、将来は自分の畑を持ち、農業を生業にしたいと考えようになりました。

昨年常陸太田市に移住し、実際に農業の研修に取り組む中で、その思いはさらに確かなものになりました。自然の厳しさを感じる一方で、作物が育つ喜びや地域の方々との交流から得られる温かさに触れ、憧れだった農業が、自分にとって現実的で具体的な目標へと変わってきています。

梨を選んだ理由

果物の中で梨が一番好きで、以前から自分で栽培してみたいと考えていました。さらに、梨には早期成園化を可能にする仕立て方があり、新規就農者にとって課題となる収入の安定化までの期間を短縮できる点に魅力を感じました。

実際に研修を始めてみると、収穫・販売や剪定といった忙しい時期と、比較的落ち着いている時期がはっきり分かれており、メリハリのある働き方が自分に合っていると感じています。さらに、すべての作業が梨の出来に直結するため、やり方次第で結果が大きく変わるところに面白さがあり、日々の試行錯誤がやりがいにつながっています。

卒業後のビジョン

協力隊として活動を始めて1年が経ち、畑で作業をしていると地域の方から「頑張ってるね」と声をかけていただけることが増え、大きな励みになっています。実際の研修では、降水量が少ないことで果実の品質に影響が出たり、病気や害虫による被害が発生したりと、自然の厳しさを目の当たりにしました。そのたびに師匠や近隣の農家さんから具体的な対応を教えていただき、今後自分が独立した際に活かせる大切な学びになっています。こうした経験を通じて、農業を自分の道として歩んでいく覚悟がより固まり、農家としての成長を少しずつ実感しています。

卒業後は常陸太田市で梨農家として独立し、まずは安定した生産と販売体制を築くことを目指します。そのうえで、協力隊の期間で得た経験を生かし、将来的には農業を学びたい人を受け入れる仕組みを整えたいと考えています。梨づくりを通じて地域に貢献するとともに、常陸太田を梨の産地としてさらに盛り上げていけるよう努めていきます。

4月 花粉の採取と授粉

花粉の採取や授粉では、開葯器で花粉を集め、梵天を使って一輪ずつ柱頭へつけていく作業を行いました。摘果では、茎の短い一番花の果実は避け、3~5番花からできた実を中心に残すよう意識しました。

2年目に入り、去年は戸惑っていたタイミングの見極めや残す果実の基準が少しずつ身につき、不安が減った分だけ落ち着いて取り組めるようになりました。迷う場面が減ったことで作業スピードにも意識を向けられるようになり、自分の成長を実感しています。



5月 1次摘果



2年目に入り、摘果の判断スピードは確実に上がってきましたが、その一方で迷った実を勢いで処理しそうになる場面もありました。特に微妙な果実ほど丁寧に向き合う姿勢を忘れないことが大切だと感じました。

また、黒星病の発生も多いため、葉の裏まで注意深く観察し、日々の見回りの積み重ねが品質を守る鍵になると改めて実感しました。黒星病とは、葉や果実に黒い斑点が現れる病気で、見た目の品質を大きく落としてしまうカビによる病害です。放置すると果実の見栄えが悪くなり、商品価値を下げってしまうため、早期発見と予防がとても重要です。

6月 摘果



仕上げの摘果を行いました。実の形や大きさ、枝との付き方を見ながら最終的に残す果実を判断する作業で、黒星病や虫食いの跡など細かい点にも注意が必要でした。判断一つで収穫や来年の生育に影響が出るため責任の重さを感じ、観察力を養う大切さを学びました。

Special 今までの 活動内容 特集

7月 灌水



スプリンクラーやホースを運んで設置し、順番に移動させながら灌水を行いました。一度に散水できる範囲が限られているため、1日おきに位置を変えて作業を進めました。7月は雨が少なく乾燥気味だったため、梨の生育を守るために欠かせない作業であることを実感しました。

8月~9月 収穫・販売・出荷

収穫では、専用のはさみを使い、枝や葉に果実が擦れないよう注意してコンテナに入れました。果実の色づきや大きさを見極め、収穫するものと残すものを判断することが求められ、自分の判断力を鍛える場となりました。

朝に収穫した梨は袋詰めして市内の直売所へ配送します。直売所では他の農家の出品物から陳列や袋詰めの手間を学ぶこともでき、販売の視点を広げる機会になりました。また、電話や直売所での注文に応じて発送業務も行い、箱詰めや伝票確認など、消費者の方に確実に届けるための工程を体験しました。

出荷や販売の作業は短時間で多くの工程をこなす必要があります。準備や段取りの大切さを改めて実感しました。ひとつひとつの梨を確認しながら作業する中で、自分なりの判断で良否を見極める経験を積むことができ、栽培だけでなく販売までを含めた農業の奥深さを学ぶことができました。



10月~11月 施肥・畑の手入れ

収穫販売を終えた後は、肥料まきや生垣の剪定など、畑全体の手入れに取り組む時期となります。古くなった樹皮を削る粗皮削り作業は、ぼろぼろと剥がれていく様子が気持ちよく、畑を整える充実感を味わえる作業でもあります。

畑を良い状態で維持するためには、こうした日頃の手入れが欠かせません。今年も作業を通して、管理の積み重ねが翌年の生育につながることを改めて学びたいと思います。

12月~3月 剪定・誘引



冬の時期は、剪定と誘引に取り組みます。剪定は梨の木を適切な形に整えるために不要な枝や伸びすぎた枝を切り落とす作業で、枝の配置を考えながら進める必要があります。剪定後は、枝が重ならないように紐やテープナーを使って棚に固定する誘引を行います。効率的な結び方や配置を工夫することで作業の精度も高まります。

剪定や誘引は、まだ自分だけで判断するのは難しい部分も多いため、師匠の作業を見ながら要点を学び、少しずつ自分の判断力を養っていきたいです。今年も経験を積み重ねながら、知識と技術を確実に身につけていきたいと思います。

Instagramアカウントのお知らせ

日々の暮らしや活動をInstagramにて随時更新しています！ぜひフォローしてください！



KYO_I_HITACHIOTA

常陸太田
梨

常陸太田市で買える！

私の選ぶおすすめ梨！

No.1

幸水

とにかく甘くてジューシー！果肉は柔らかく、シャリっとした食感が魅力です。冷蔵庫でしっかり冷やすと甘みが際立ち、暑い夏にぴったり。8月上旬から楽しめる、梨シーズンのスタートを告げる代表品種です。



No.2

豊水

果汁がたっぷりで、甘さと酸味のバランスが絶妙。ひと口かじると爽やかな酸味が後味をすっきりさせてくれるので、幅広い年代に人気です。9月に旬を迎える残暑の時期にぴったりで、冷やしてそのまま食べるのが一番美味しい品種です。



No.3

あきづき

酸味がほとんどなく、しっかりとした甘さが特徴。果肉はやわらかくジューシーで、大玉なのに食べやすく、何玉でも食べられてしまいそう。9月下旬から10月にかけての秋に楽しめる品種で、食後のデザートにもおすすめです。



1度は食べておきたい**恵水**

茨城県オリジナル品種の梨で、酸味が少なく深い甘みと香りの高さが特徴です。果汁も豊富でみずみずしく、シャリシャリとしたさわやかな食感が楽しめます。収穫時期は9月上旬から下旬にかけてで、秋の深まりとともに味にコクが増し最盛期を迎えます。同時期の品種に比べて大玉で食べごたえも抜群。今年はメディアで紹介されたこともあり、直売所では即完売となるほど大人気でした。